

2009年度の活動を振り返って（まとめ）

●2009年度はこんな活動を進めてきました

2009年	9/17	第1回ワークショップ（60～80代男性中心）
	10/14	第2回ワークショップ（30代子育て中の男女）
	10/15	つぼみこヒアリング（20～30代子育て中の女性） 学童保育職員ヒアリング
		第3回ワークショップ（40～60代女性）
2010年	1/14	第4回ワークショップ（あすなろグループ）
	1/15	ティサービス利用者ヒアリング
	3/6	第5回ワークショップ（世代を超えて）

●今までの話し合いに参加した感想をお聞きました！

- ・役場職員との話し合いをやってみよう。役場関係（住民健康課、社協、村内の介護士のみなさんなど）の縦断的な話し合い、情報交換が必要だと思います。（男性）
- ・大変参考になりました。次回も参加いたします。現実おびてきた感じがする。（男性）
- ・とても参考になった。いろいろな年代の人、みんなと一緒に話ができてよかった。（女性）
- ・みなさん活発な意見が出たと思います。これからがんばっていききたい。（女性）
- ・来るのが不安だけで困っていたけど、来たらすごく楽しくて良かったです。（女性）
- ・気兼ねなく意見が言えて良かったです。（女性）
- ・とても楽しい会でした。またこのような会があれば参加したいと思います。（女性）
- ・村の様子も少しずつわかってうれしいです。参加できて良かったです。（女性）
- ・70代や60代の人と話すことができてとてもよかったと思います。（女性）
- ・20代、30代の方の参加がなく、残念であった。ぜひ一同に会した話し合いがしたい。（女性）

2010年度の活動計画に向けての意見

●話し合い、学び、やってみる…そんな2010年にしよう！

- 女性版ふれあいトークの実施を！（大小様々な規模で）
 - テーマ毎の話し合いをこまめに行っていく。
 - ティサービスのサービスの改善につながる連携的活動を。
 - 高齢者や子どもの居場所づくりを試行してみる。
 - 配食サービスの枠組みを改善し、さらに訪問や共に食べる場づくりなどの組み合わせにより望まれるカタチに。
 - ボランティアなど新たに活動する人材を育てていくような仕掛けや仕組みを考えていく。
 - 地域の小さな困り毎をすくい上げ、助けるサービスを考えるための勉強。
- いずれは村民主体の活動・起業（コミュニティビジネスなど）へ

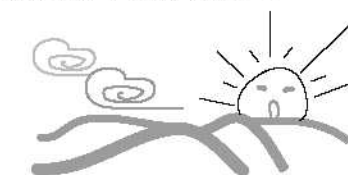
2010年の予算概要

発行責任者：山口博康
この事業は平成21年度当初予算に計上された「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。
<お問い合わせ>
道志村役場住民健康課 52-2113まで

編集後記：この事業の予算名称はとてつもない苦しいのですが、村民の方々と話し合いを持ちながら、会を重ねることに楽しく、また女性/マザーに圧倒されるプロジェクトでした。でも本音も沢山聞くことができ、とても良かったです。平成22年度も予算がつき、話し合われた意見・提案の実現に向けて頑張りますので、皆さんの協力もお願いします。参加された皆様、貴重なご意見、どうありがとうございました。(Om,Mm,Ns)

「世代を超えて安心して暮らせるむらづくり」プロジェクト 第1期の活動が終了！

道志村未来通信 3



2010年3月31日発行

温かい人に囲まれて、美しい風景と爽やかな自然と共にある道志村の暮らし…
でも、今感じている「仕方がない」という思いや将来の不安もいろいろある…
年をとること、子育てのこと、後継ぎのこと、仕事のこと、進学のこと、将来の夢…
家族だけでなく、村のいろいろな人と語り合い、未来への希望をつないでいきませんか？

去る3月6日、今年度のまとめとして、
様々な世代の方に呼び掛けて話し合いの場を持ち、
道志村での高齢期の暮らしについて語り合い、
次年度につながる具体的なアイデアや意見が出ました！

つくって、食べて、
楽しく話し合おう！



やまゆりのキッチンで、その日の調理担当になった方々が一緒に料理をしました。



クッキングチームと話し合いのチームに分かれ、最後は一緒に食卓を囲みながら楽しい会話が弾みました。

未来通信No.2で、ご紹介した、コレクティブハウスの「コモンミール」という共同の食事づくりを試しにやまゆりセンターのキッチンでやってみました。その感想をご紹介します。

◆今日のコモンミール、いかがでしたか？

- ・わずかな時間でいい話し合いができたと思います。まとめも手際よく、感心しました。（男）
- ・大変よかったです。今後も続行してください。（男）
- ・みなさんの作った煮物、おいしかったです。（男）
- ・食事の準備をしながら、老若（？）の生活の知恵を教えてくださいました（料理の知恵）。料理を作りながら生き方について話す機会もあって、先輩の話を聞けました。（女）
- ・たくさんの人と対話できて良かったです。参加した皆さんもストレスを分散させていました。（女）
- ・幅広い年齢の人達と楽しく会話でき、とても良い会だったと思います。食事もおいしくいただきました。年に2回程度は、このような会があったらいいと思います。（女）
- ・たくさんの方でつくった煮物のおいしさを発見しました。時々また皆さんと集まってみたいと思います。配食ではなくこういう場をもてたら、話しながら楽しく過ごせると思えます。（女）
- ・とてもよかったです。みんなで話して食べて、楽しい会だったと思います。お弁当サービスじゃなくてもこんな手作りのものを食べて話す会があってもいいと思いました。（女）
- ・葬式を外でやるようになり、みんなで一緒に料理することがなくなり経済的に楽になったが、集まる機会が少なくなりさみしい。料理を作りながら会話が進み楽しかった。（女）
- ・年代の違う人達と話せてよかったし、とてもおいしかったです。来年度一つでも二つでも実行できるといいですね（女）

道志村での高齢期の生き方 などについて 話し合いました。



■配食サービスの工夫で、利用者を増やす■

- ・配食サービスをもっと多くの人に利用してもらいたい。
- ・家族でお弁当を食べたい時もある。
- ・食事づくりは村内の食堂も活用できる。
- ・配食サービスの時、話しをするようにしており、それをとても楽しみにしている人がある。
- まずは、配食サービスの利用対象の規程を改善する。
(家族がいても利用できるように)
- 配食サービスと訪問を組み合わせた活動にしてはどうか。

■個別的に支えるコトが大切■

- ・重度の人だけでなく軽い人の行き場所、居場所があるとよい。
- ・一人暮らしで寂しくしている人の行く場があると良い。
- ・家族がいてもあまり話さない。同世代の人と話すことも必要。
- ・子育てが終わると夫婦の会話もない。
- ・配食サービスの時、話しをするようにしている。
- ・介護保険に縛られないやり方が必要。
- ・カウンセラーのような、話を聞いてくれる人を必要としている。
- ・かつてはご近所同士で行き来しておしゃべりしていた。年をとるとその行き来もなくなる。
- 居場所づくりが必要。その際は、移動手段もあわせて必要。
- 誰かが話しに来てくれることも必要。

■高齢者だけの暮らしを支えてあげたいけれど■

- ・高齢の二人暮らしで奥さんの調子が悪い人がある。どうしているのかと心配。
- ・大けがをした一人暮らしの人がいて、どうしているのか心配。
- ・一人で孤立して暮らしている人があると気になる。
- 人のことで立ち入れない
- 家族や親類をさしおいて、他人が入り込めない。

■デイサービスの限界■

- ・若い人が行くのは恥ずかしい。
- ・行くまでハードルが高い。
- ・本人が行きたがらない。
- ・性格的に周りを気にして行きたがらない人もいる。
- まずはお風呂を入れてもらうことから始めるなどの工夫を。

■配食も良い、でも集まって食べるのも良い■

- ・配食に行くと、一人暮らしの男性がすごく話しをしたがる。
- ・配食ではなくこういう場をもてたら、話しながら楽しく過ごせる時間が持てる。
- 集まって食べると楽しいので、やってみたい。
- いろいろなやり方を組み合わせれば良い。

■ボランティアをすること■

- ・ボランティアはお金と暇がある人がやるという考えはやめたい。
- ・ボランティアのメンバーが限定されている。
- ・ボランティアをやりたいくても余裕がない。稼がないと行けない。
- ・10分でもやろうとする気持ちが大切。
- ・できる時に奉仕して、いずれ面倒を見てもらう。
- ・尽くしたことは自分に返ってくる。
- ・自分も子育て中などお世話になったので、やれるようになった時にやりたい。
- 必要と思う人がやる。ボランティアに対する発想を変える必要がある。
- 人のために何かやりたくても機会がないという人に、その機会を開く。

■気兼ねなく人の手を借りられたい■

- ・大きな組織でなくてもネットワークがあればいろいろなことが出来る。
- ・何でも屋をやろうと思っている。そう言う会社があっても良い。
- 気兼ねなくサービスを受けられる仕組みがあるとよい。
(ex.地域通貨など)
- 机一つでも、ネットワークで村民に必要とされている様々な生活上のことを支援出来る会社なり活動なりを考えよう。

●役場とのコミュニケーションや役割分担についてもいろいろな意見が出されました●

- <もっと村民の意見を真剣に聞いてほしい>
- ・役場に地域担当ができ、地区の意見を聞く体制はつくった。
- ・役場は地域の意見の聴き方が下手。
- ・役場の人を村民は厳しい目で見ている。
- ・家族に役場職員がいると意見が言いにくい。
- ・部落ごとに行われるふれあいトークは、役場からの説明で終わってしまう。
- ・デイサービスのボランティアの話を役場は聞いてくれない。
- 役場とのコミュニケーションをもっとよくしないと、集まりを呼び掛けても出席しなくなる。
- 村民と地区担当のこまめな話し合いをやってみる。
- 役場職員との話し合いをやってみたい。
- <職員に意欲的に仕事をしてほしい>
- ・仕事を頑張ることの楽しさを知ってほしい。
- ・お金に見合った仕事をするコトは必要。民間を見習ってほしい。
- ・役場は組織化しておらず、年功序列があり、仕事出来る若い人を活かしていない。
- ・役場本来の仕事をもっと丁寧にやってほしいし、もっと頭を使って考えてほしい。
- 役場職員がもっと熱意を持ってやれば住民は出てくる。



■女性や幅広い年代の話し合いの場がほしい■

- ・若い人も一緒に
- ・ふれあいトークは意見を言いたくても言えないので、代表者しか参加しない。
- ・ふれあいトークの女性バージョンがほしい。部落内だとものが言いにくいのでそうでない話し合いの場がほしい。
- ・代表者が低年齢化してやる人がいなくなり、婦人会もなくなった。
- ・バレーボールもやらなくなった。
- ・葬儀を他所でやるようになり、楽にはなったがみんなで一緒に料理することが無くなり、交流もなくなってきている。料理をしながら会話するのが楽しかった。
- ・今回の集まりは、年代の違う人たちと話ができてよかった。
- 楽しい女たちの集まりを復活したい！